

# モジュール型オンライン教科書の開発

## 1 年生向けドイツ語授業における試み

コンスタンティネスク チェザル(明治学院大学)

### 1. はじめに

教科書は学習の目標、内容、ペースを決めるものだ。一般の教科書に頼って授業を進めることは教員にとって便利だが、同時に上記の三点を選択・調整する自由が失われる。ペースを調整することによって受講者の期待を損なうことなく、各クラスの特徴に配慮した授業運営が可能になる。内容を自由に選択することができれば、教員は学生の自己学習に役立つ参考資料を紹介し、授業に取り入れることも可能になる。教養教育における言語教育は言語習得にとどまらず、コミュニケーション能力や談話的能力に加えて、自律性やメディアリテラシーの育成も求められるようになってきている。授業の目標を自由に設定することで、教員はより効果的にそのような要求に配慮した授業を設計することが可能になる。

### 2. 概要

日本の大学における初習言語の授業は大抵の場合、春・秋学期にそれぞれ 15 コマないしは 14 コマと授業時間が限られている。このような事情のもとで、授業の内容を進行状況に柔軟に対応させ、またウェブサイトや動画などのネット上の資料を簡単に授業に取り入れることができる方法を模索した。その際、Moodle と Padlet という二つのプラットフォームを用いて、CEFR の A1 レベル相当の内容を扱うオンライン教科書の開発を試みた。更に電子ポートフォリオを利用し、学生が各自の学習記録をつけることによって、彼らが授業時間外に自由に取り組んだ学習を教員が把握することを可能にした。それと同時にオンライン教科書に各回の新しい内容を追加しクラスの進歩を教員からも学生からも確認ができるようにした。

### 3. 今後の課題

従来の出版された教科書を使わずに、様々なオンラインツールを活用しながら、オンライン教科書とポートフォリオを使う授業コンセプトは、一部の受講者に肯定的に受け入れられた一方で、従来のオフラインでの学習を好む学生にとってオンラインの学習記録は負担になった。今後の課題としては、授業内で活用する個々のツールの必要性や使いやすさを評価し、引き続きバランスを調整しなければならない。それに加えてオンライン教科書の教育上の利点を長期的に研究する必要がある。そのためにも様々な環境のもとで上記のようなコンセプトを実践的に使用し、調査をする共同研究が望ましい。

以上